

1. はじめに

農林水産省では、大学等の学生を対象に国営事業所などにおいて就業体験を行うことにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、農林水産業、農山漁村及び農林水産行政に対する理解を深めてもらうことを目的にインターンシップを行っています。

ここでは、今年度、当事務所で行ったインターンシップについて紹介します。

実習期間	8月30日(月)～9月10日(金)
------	-------------------

大学生受入	近畿大学	1人
-------	------	----

2. 実習計画

実習は国営土地改良事業のライフサイクル（計画～実施～管理）をイメージできるように農業農村整備事業の概要や同事業における環境配慮などの講義から、ダム、頭首工、用排水機場などの国営事業で造成・更新された施設の視察、土地改良区などの施設管理者の方々との意見交換などを計画しました。

また、農村の振興に向けた施策であるICTや再生可能エネルギーの活用、鳥獣被害対策やジビエについても実習計画に取り入れました。

3. 実習内容

①国営造成施設



基幹水利施設の視察
(横江頭首工)



基幹水利施設の視察
(十郷調圧水槽)



施設管理
(大日川ダム)

②ICTや再生可能エネルギーの活用



ドローンによる地形測量
(コマツ実証圃場)



小水力発電施設
(宮竹用水第2発電所)



ICT建設機械による施工
(河北潟農地防災事業所)

③施設の調査、環境配慮



施設の劣化状況調査
(柴山潟幹線水路)



イタセンバラ保護池
(氷見地区)



環境配慮水路
(富山市内の農業用排水路)

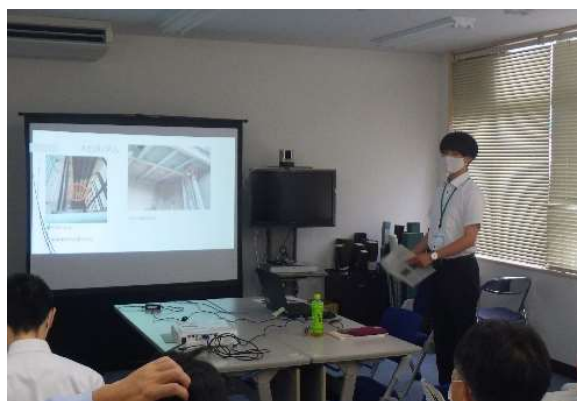
4. おわりに

今年度のインターンシップも昨今の情勢を踏まえ、オンラインを活用したり、マスク着用などの感染防止対策を行ったうえで、実施しました。

今回の実習生は石川県の出身で、現地視察ではなじみのある場所もありましたが、将来を見据えて参加した実習生は、一生懸命に実習内容に取り組んでいました。

成果発表会では、毎日食べていた地元のお米や野菜の生産はダムや農業用水路に支えられており、普段何気なく見ていた用水路は多くの人々のおかげで成り立っていることを知ったとの報告もあり、私たちの仕事について理解いただけたと感じています。

近い将来、実習生が「同僚」となっていることを願っています。



実習成果発表会

実習生の感想

今回のインターンシップで、農林水産省は日本の国民に安定して食料を供給すること、命を支える食と安心して暮らせる環境を未来の子供たちに継承していくことが目標である事を学びました。

また、地方農政局は県や市町村、土地改良区などと連携して事業を行うことで人とのコミュニティを築くことができるところがいいと感じました。

自分の行った仕事が形に残るという話が印象に残っており、やりがいを感じることができると学びました。

今回の経験を大学での卒論や研究、将来の仕事に活かしたいと思います。

♪ランチでは、地元グルメを味わいました♪

